

遠方

宮坂静生

遠方に嶺争へり二月尽
甲斐駒ヶ岳へ百匁蠟燭春祭
噴水の放射に桃の剪られたり
檻ぼ襖ろ機ばたの春立つひかり杼がとばし
窟あなぐらの爐辺へ臀でん部ぶを運びたる
燠製になりかゝり爐火はなれ来る
猩々木磔像いまも血をたらし



篤き第二句

寒中の煙突ゆく手て遮ると
半生の寒の轟音死ぬ仕事
寒土用寝る一仕事残りたり
大寒の墓にまなこのひとつづつ
雪降るは天のざんげのはじまりか
網の目に木の雪まとふ母子かな
枯山の根にゆきわたるひかりの子
いとこ横山洋子の死二句
やさしきは死を呼び易し斑雪谷
生涯に亡骸ひとつ春帽子

